



伊地知文庫
文庫20
383
4



武江年表卷之四

伊地知氏書冊



正徳元年 辛卯 五月七日改元

正月三日未刻甚^{おつひ}土釜町^{たかふか} 本名飯余町といふ となりお火為水風小随ひ村等甚

有店海をまて武家町屋ともお焚焼お刻結る

○正月十九日新和泉町となりお火乾風烈くく雲嵐湧ふりく

籠屋の焼失すお又十町計り焼る ○正月廿五日田光大原五百年忌あり 東郷大原の

後軍をぬふ ○二月江州土山田村右軍像儀次第にて宴帳

○二月不熱池の辺となりお火為水風烈く延焼万敷ふ及り 拍燈

お ○三月十五日となり五月まで橋場総白米とす梅若丸妙喜尼

の七百世二年忌として圓向あり 本母ち縁記ふよれハ七百世五年あり

○正月羽田要將統主院小井才天勅清 有る家小井
言像ことり

○二月五日より六月廿日まで水代もあまらるる房州清澄寺虚空

院并宗帳 ○夏中より圓向院にて甲辰八月市場不動尊宗帳

この時ある橋本清松屋三右衛門といふ方友よりめて花巻子にて製製一編ありぬ
系務きん子といふる其の人のおんまがうるへきよりめて割けるよりぬるむらさ
はくといふもつるまをうると長尾家の祥せん小
はて名付いと世の清浄不見えり

○七月よりこれ改め新吉原大門口のち札を改め

○八月にッ宝銀通用をどまらるる ○八月九日大風

○九月十八日唐合村養雲より然尼寂 祥尼のた徳善く人の
知り正由へら小畧に

○今年後辺車菴率 百三才
大堀院 ○二橋橋筋社にて今年より

神遊七夜清といふ事を行ひ始む はる江府神社畧記
お要りあるせり

○十月朝鮮人來聘 正使勃菴侯 副使任舟幹 渡率 李邦彦あり 旅宿宿長と
本使よりありり 津川に引くらるる 今年よりハ本を教す

と改め新井白の先守、宝徳堂生中韓人の子と司らば時白石朝鮮人本と同意あり
筆法を銷養漢輯録して江空筆潭といふ字本一冊あり 幸外正徳十一月五日在江
附白石源若英、新井能、來訪
贈不とあまらるる ○十一月廿八日親鸞上人に百五十年忌法會

○十二月又日祐天上人坊上より恒藏小令せらるる

○十二月十一日申刻連雀町よりか火乾の風烈しく通町本銀町本

町石町に丁目まであまらるる焼燬燬まで一石橋日本橋焼燬唐雲堂

焼燬まで焼燬同日夜宮刻火焼燬 焼くふは時連雀丁
ハ次田町焼燬あり

正徳二年 壬辰

正月八日儒宗中邑留溪率 名願言孫朝八溪系
ハ新吉町妙短も小尊也

○正月十一日 一後小同ニ多
正月七日夜云 風邪焉知祥師寂 約以言林より小尊あり
曹洞の智藏あり

○日本橋江戸橋の万度小治と改め ○二月白石寺中紅毛人乃

旅宿小のりて同對の事あり

○二月八月淡草より本所目まで焼亡本所由救小座建へ
 ○二月品川河邊有物取新物来り并糸付と渡河も同物
 出来○七月廿一日水戸府城原忠氏の室長山内子率四十二才
寺山紀史時人信未かろ ○九月信守室館通用止
寺山紀史時人信未かろ
 ○通志より目黒後店自木の井去歳敵を入是救月を経て今
 年井白水を獲りり東隣の韓人朴同和澤敵を撰今年十月
 赤井將家寫して銅鑄小鑄を

正徳三年癸巳 九月間

正月廿七日狩野若朴常伝率

七十八才 称右近

○二月二授立二授立の船を撰せし

○二月本撰町山村長を交芝居あて助六の船を撰て奥に

○二月晦日江戸中自芝花障又合判の物きあつ

○五月二日儒師大高芝山率

名乗取 称清外 澁谷長谷守率

○五月十九日の夜虫を獲現は成好まされて中へ落く六月升り

一丸光あひるく丸元信くさり一丸よりあふむてせてもあ

刀入陸奥小野 氏家あり ○十二月廿二日下谷より火火下谷隊系辺焼亡

駭一○今年深川之十三間堂焼亡同六年再建あり

同 同 年 甲午

三月本撰町六丁目山村長を交芝居引絶

この附御優止と島新其形八丈 南小瀬せしるの語あり

物獲くく一龍もあき候ふ
 成て本撰町人よせふとくのとる一とて人長をあらあめや年改中より大坂より来り
 本撰の大木信正所より一箇麿店のは上のひける男よりきこはる者や深あめめめめをま
 けらり又御座町あつ山城屋といふ酒屋の下男をいふ村長を交り声をつひける由
 年改中よりあつて自人不服をいひとも本撰町をいふ声をつひける
 一とて是は深川より舟難救救者の声をつひける

○五月新金銀市吹替 ○五月二日品川東海と洋之原院始溪和
尚寂石長寺 ○八月六日より十五日まで増上寺の山内常照院卒

○九月廿二日根津櫻現根津を移す江戶町津を練物あり廿一日あり一雨天候
一灰今日小必より

○十一月琉球人東渡正使与那城王子
令武王子
○十一月に宝銀を以て新上銀小吹替あり

○十二月十一日夜光物原己より成意く花を雷の如く震動し
心徳 乙未 乙未

二月廿一日儒師深見訥亭卒名直一名永常
外込正定院小華

○三月廿七日湯島村八十才あり尚齒余あり列座の末を愛隨翁百才
七十

小森園馬百才七古徳宗見百八
七十石寺宗房九十
七十下条七玄清九十
七十 桑人
谷口一雲九十
七十 忌中事之取八十
七十

○四月日光山百年浄社忌法会あり
○心徳より享保よりあまて津橋度小海まで盆中夜小入り

○十月十七日俳人調和卒八十才西
本朝中卒
○十二月晦日夜半計り不終の口辺より火よりて丸盤橋法門内

穀芥屋橋法門内まで津橋より芝は橋までの町屋本挽町より
御正月元日夕々々燃火

角力取松風漸々清能忠之巻津大関とあり正徳二年雜司谷
鬼子母非初(部)を収む○能入(女)賀園山内(橋)樹二十六
株を載る(平)仙橋と号す

○深井極木(在)任(在)湯(勢)汚(瀨)河(を)多(く)育(以)

本(は)も(こ)ま(り)座(木)極(一)あり(享)保(の)頃(より)百(程)の(楓)を(集)め(る)号(を)授(刻)し(ま)す

○浮世珍匠(著)川(作)宣(正)徳(中)七十(餘)才(一)て(終)ま(り)

懐(月)堂(号)安(安)堂(号)此(係)七(この)以(以)初(初)ま(る)

○小(舟)町(天)主(系)の(時)山(門)の(造)り(大)根(源)運(等)ら(る)事(正)徳(中)

と(り)始(り)今(今)も(も)と(と)り(小)舟(町)天(主)の(正)徳(中)取(取)む(む)り(小)舟(町)小(舟)あり(り)と(と)正(正)徳(中)

○武(江)披(抄)云(小)舟(川)古(殿)禱(禱)や(禱)祈(社)八(宝)永(中)私(田)倉(濟)用

座(及)开(於)之(大)茶(氏)後(后)の(時)系(於)吉(田)家(の)雜(堂)拵(刀)忍(忍)川(の)
廢(也)禱(祈)を(大)茶(氏)の(能)也(と)て(一)切(法)也(と)正(徳)中(法)用(座)及
一(統)引(拂)せ(と)ま(る)自(山)出(越)へ(替)地(を)下(さ)ま(る)一(時)禱(祈)社(白)山(一)
後(一)け(ら)奇(瑞)の(事)あり(て)法(作)の(り)の(増)け(ら)う(と)後(一)さ(と)知(く)
引(被)一(け)ら(と)あり

○管(簾)の(古)来(あり)一(と)と(賣)也(と)と(り)と(り)一(め)ら(正)徳(の)以(築)地
小(笠)原(也)乃(乃)真(持)仲(也)の(り)一(者)也(り)也(一)也(正)徳(中)在(座)山
本(居)年(と)未(見)也(と)一(賣)始(り)一(と)一(世)本(法)濟(よ)り(り)

享保元年 丙申 二月間 七月朔日迄迄

正月元日(去)来(除)夜(の)大(火)今(夕)々(と)り(落)つ(る)十一日又(池)の(堀)と(り)火(殺)一(と)村(田)辺(本)町

石町日本橋又最^一近^一延焼多^一く櫛舎も中け^一る^一折焚
柴の記も見^一え^一り^一○同十八日浪^一吹^一り^一西^一邊^一より^一火^一入^一り^一
本所河川^一多^一く^一焼^一亡^一り

○半蔵津門^一本橋^一清^一水^一古^一末^一の^一こ^一こ^一通^一船^一を^一あ^一り^一あ^一り

○八月十五日^一能^一人^一山^一口^一素^一半^一年^一
七十五才^一約^一以^一
岩^一淨^一院^一年^一華^一

○十一月廿九日^一夜^一光^一持^一夜^一○十二月廿七日^一儒^一原^一本^一道^一田^一年^一
名^一え^一り^一
号^一菊^一本^一

麻布^一宮^一坂^一
七^一小^一華^一年^一 ○折^一焚^一柴^一の^一記^一流^一
新^一井^一白^一石^一年^一
編^一写^一本^一

享保二年 丁酉

雅^一筵^一餅^一和^一菓^一丁^一酉^一の^一こ^一こ^一後^一の^一

唐^一穂^一河^一下^一り^一と^一あ^一り^一○^一所^一や^一柴^一乃^一事^一
心^一親^一町^一公^一通^一り

○正月廿二日^一末^一刻^一小^一石^一川^一子^一協^一銀^一井^一系^一系^一後^一より^一火^一入^一湯^一又^一神^一田

後^一持^一院^一の^一莊^一敷^一神^一田^一橋^一法^一門^一内^一銀^一治^一橋^一下^一り^一まで^一火^一入^一の^一藩^一邸^一敷^一
宇^一通^一町^一八^一丁^一橋^一築^一地^一まで^一火^一入^一町^一敷^一も^一毀^一れ^一焼^一亡^一あり

○又^一後^一後^一持^一院^一を^一小^一石^一川^一の^一末^一小^一橋^一さ^一せ^一り^一色^一の^一海^一兵^一船^一子^一橋^一下^一
火^一入^一海^一兵^一船^一地^一と^一あ^一り^一○正月廿二日^一能^一人^一北^一後^一浮^一世^一年^一
小^一石^一川^一金^一剛^一
寺^一小^一華^一年^一
海^一兵^一船^一子^一橋^一下^一
南^一持^一院^一小^一華^一年^一
八^一十^一才^一

○六月^一旗^一炮^一海^一兵^一船^一町^一より^一約^一込^一富士^一権^一現^一へ^一花^一万^一度^一を^一さ^一り^一る^一事^一
今^一年^一より^一さ^一り^一る^一事^一○七月^一旗^一炮^一海^一兵^一船^一年^一止

○八月^一新^一金^一通^一用^一止
二^一年^一限^一り^一
西^一信^一止

○八月^一十六^一日^一大^一風^一雨^一火^一入^一を^一損^一じ

○十二月^一十二^一日^一神^一田^一横^一大^一工^一町^一より^一火^一入^一日本^一橋^一小^一まで^一焼^一亡

○同^一廿^一八^一日^一火^一入^一り^一身^一込^一山^一伏^一町^一より^一火^一入^一魏^一町^一に^一谷^一芝^一田^一町^一まで

燒亡○十二月 日田中丘隅率

武加川藩の西小向村妙光寺に薬師堂あり古く
冠帯老人と云一年河内川の洪水を治り四角

後て江戸の別本
かへりて

享保二年 戊戌 十月至

喜多の作勢と家宮と争りかて徳主とりの群をさるるの難

○二月十五日深川本郷とる鼻缺地蔵寺今日とりて争りかて

芝藏群集一の移りの形ひをうらるよ一江戸妙子あり

○二月廿二日儒所園井黄陵率 名孝祖 称孝右衛門
儒所本郷より小笠原に

○五月朔日五高寺湯町とりか火通町八丁堀辺築地まで焼亡

○五月十五日儒所酒家杉杉率 名弘 称孝左衛門
中見樹院下築地

○六月七日日本提儀宗抗法立知あり

○六月十八日維人其母亭み我率 六十七才
本郷より小笠原

○七月十五日祐天上人月黒お寂 八十二才 享保中二世祐海上人

送跡下寺を建てる祐天寺といふ

○八月廿六日儒所之宅親潤率 称九十才 約込
流老より小笠原に

○同月市村外之惠地室中道世一率所小自院院とて寺を

築創一被阿と号一短一けるう今年十月十日六十五才あり

大改しをさるる○十月十四日將時探儀とる政率

○十月末留座六百人不定る○同十月利令銀引習始る

○十一月琉球人東聘 心使 称東主 ○十二月五日小石川白山社敷焼

○儀事寺同回家の焼座へ持法院
僧正より儀事解の名をぬき

同 己亥

正月元日圓の時日館 二才半 ○二月十二日奉町寺内亦作田焼火相立

十日日あきて漸く鏡る○二月廿二日重徳をふり五百奉出忌

○三月十八日より五月廿八日まで浅茅を親世を毎帳貞享二年より
世三年間あり

○四月十三日安東東野率号東壁社仁堂つ二十七才
あり橋坊福善院小堂親

○江戸町火消いは組よりまる○五月浅茅を奉堂修葺十万人

構始る月六年九月小
いさく浅茅○浅茅法を奉の第六天社今年より小罷り今の

地へうつる○九月朝鮮人來聘正使供致中副使黄階後率李順彦等
あり旅初東本朝より 以朝鮮人曲るを

○九月廿日韓人進
勇内へ幸町系院をより火奉八丁

堀辺野焼○十月新宮の町奉庭又七と六りの水川筋の町人をく

らひ津敷山の上りより操芝居を元より辰堂八高立場名敷あり
同十八より二月のり興りせ

○十一月九月能人天狩櫻澤率号五世居町
新光町小葉を

享保五年 庚子

二月廿五日堺島郡大お孫大雲と焼亡おわさぐ

○二月廿七日午半刻流島町よりお火南風烈々となり町日本橋

を傳り町を喰町を津田辺和泉橋下若上野坂本合杉並木の端

をより消る○上野二王門消滅云

○七月廿三日儒所中村掃澤率丑十四方名冠善
深川要澤と小葉

○八月園東波あり○八月町火消の纏りし組の方城を記しるまうが

長七尺の吹流を下又提を記しる提を記しる
以歴代の纏をさし
根の流をさし

○八月廿八日儒所新田掃澤率標掃澤
合平の男○九月十日大風

○九月廿一日白山権現を新産子町よりか練物を知り練物
中絶

○今年冬冷泉中納言を徳令清率向あり鳴島氏伝編法

子くあ〜〜〜

○洞房淨靈法寫本

唐司乃於永編
板中元文二年之

○吉系丸鑑二冊法

志の土山陸士
傑所也と云

享保六年

辛丑

七月

正月八日盆日時辰後町よりお火入為水大風通幸丁目より系橋
本材本町八丁留本挽町旗炮海築地靈巖所銀町まで焼了

○二月二日辰下刻之河町に丁目表町よりお火入して神田を丁目
上野江門焼法系寺町之右まで焼亡

○二月四日己刻之身込庄納戸町よりお火小日向小石川辺一系小焼了
白山の辺より之焼了より日暮里まで焼了此時傳通院へ逃入焼
死したる者二百八拾餘人云々一基の焼了を
た念ひあり築土八幡宮白山社に於時
焼了傳通院災後敷書傳房法濟未恙く法再建あり

○同寺前より一由火消法後小川町へ引つゝとあり

○二月十五日金剛工柵川政次率

柵川の
祖あり

○二月廿日水府侯由信医吉田林彦率

八十七才年中大娘を不葬法義子
信政享保十年己九月率せり

○二月十二日乃府侯信長森尚謙率

号儼整

○二月法社の系禮の時左巻と名つけたる物をお火して信彦共あり

○五月神田橋法門和ふ於る古林見宣醫書講法始了

法医師
融安氏

○六月十二日三廿七日茶人懸宗知率

号五郎子下谷廣徳寺
中林雲院小茶氏

○書物圖書定了六部

将友其而号實定母
若行信徳雲寺小茶氏

○七月廿一日頼町八丁目通より妻に十四女會所同率小痛合利
をかり頼町小町のて又一顆をかり翌年壬寅六月朔日其の昏
又一顆をかりはま小室鏡子奉法里中の人皆法を觀せしを

る後以相傳とん生出来本を後して舍利の記一篇をあつせり
文集の ○秋宮上皇浩あり ○十月金銀引習
中より

○十月湯島寺丁月後色丸言博とりの若る像の六地蔵を六右
丹建とよま 今湯島総廟也 ○十二月十日二河町とりの火通町筋本
あつてもあり

枝本町坂本町南茅切町八丁塔換炮海築地まで敷焼

○十二月廿七日後後氏十一代通事率 廿十八才

○南番別志とまゝと穴との山石古金を堀らる穴なりまみいあが
の事あり享保六年の以黄金の舟り流砂をまゝといたまゝ年の
はらぬなりとて堀らるありぬ

○芝永井町岩町區山町坊上寺の火除地となり神田の舊地を
あつらる ○あつらる記刊行 貝本等所
土佐等遠

享保七年 壬寅

二月十五日より八月十五日まで一橋町の水堀地へ諸人遊覧を
ゆるぎとる事始る ○二月青松寺とらり増上寺とて寺の南度小
路と漲る ○二月十八日より七日の月後寺より觀世菩薩像

○五月十九日儒所申根植業率 名重玄 祿方内
本志田内院玉葬

○六月市仲多智所申の諭新義をあらり兒守のふか小書て
あつらる松小令せらる 六諭新義八宮格景景はせの秋まる
正あり一官刻あつて坊内小領のみ

○七月江戸申世宗祥同慶廿九人あ定る 浮母町小
令不違

○八月八日儒所御見去感率 七十七才年姓る階稱おとる書とるは後
親者も施を畏の歌を著一人あり上飛渡必

○十月千川上あ青山之因の上あを止る 安永九年のころ千川上あ再
築を ○十二月六日神田新報町とりの火病神田一寺小焼亡
あつらる止む

○小石川法華堂を不養生中、所達十二月より貧困の病者を信めり
葉解を与へりい所の板を割製板といひしころより後去信病人板と
り記名人信通院前住居の医師小川年取と云ふなり
享保八年 癸卯

二月十六日赤坂傳了町よりお火病如風烈下く其病の久保延焼了
武家方町在額焼敷あんがち ○二月十五日より三日の乃中村劫之節

其居百年の妻相云新殺意を敷猿若大名等を具行に

○二月廿二日休く木玄龍卒七十四才文山の兄能出あり
坊上寺中津運院小葬す

○二月廿九日能入志村玄倫卒六十三才

○三月十九日折奉人磨千幸卒二月廿日る貞全折奉社一
三信折奉大御宗と道あり

○元禄銀室永銀申報之り室銀同り室銀通用止

○五月十日新井明柳卒白名二男 林信房後孫
被君中より池子中葬す

○六月陽原深井秋水卒八十二才

○七月廿六日池上本門寺本堂再建入佛供養室永年中焼亡の後
廿二世日没上人再貞

○八月近在おあり ○青羽町九丁目青柳町お飛取掃おの時限
賣女あり野とありて時や
若羽のころと法 ○十月十日湯島天満宮造営了文は
ありし

○十二月十日狩野潤春福伝卒

同九年 甲辰 十二月

正月十二日英一操卒七十一才二年校義教寺中殿堂院不葬以釋世
まねくうの浮世のころの色くも有りてや中不麻垂の月

○正月廿九日お安町よりお火事南の赤月町お本換町まで焼了
口法門燒了くくおの後津再建二世本換町お火事
屋敷に在り

○為久保八幡宮を去年の災後修造成去院造不ありくく

○甲府清城番始る ○二月四詳 本郷より火入築地近焼亡

○六月七日狩野永叔之伝率 六十才

○六月廿五日在都毛陣長廿敷十尺小堀より一色白くすの尾の細きうこと ○八月清茂前札元百九人小定く

○十一月廿一日能人の二世の立忘率 清茂及孫 千葉氏

○曾和通曆刊行 系仲根 之圭編

享保十年 乙巳

二月十四日青山久保町より火入赤坂江谷市谷并込大塚多羽小石川黒崎野込谷市下谷合村まで焼亡

○二月廿五日百羅澤堂再建法中成就す 是家先和尚元禄の末より市津を勧化せしむるなり

○二月十九日能人菊后高秋之率 神世 見一差のちめても色のうきつそ

○五月十九日官儀新井日石先生率 六十九才名譽字君義 淡系鍛鉄寺津之徳と小葉

○六月廿二日古筆六代り膏率 五十二才

○七月廿日津路瑞徳一寸見河東死 四十二才天徳屋屋平市羽本形七市路勝 ち葉氏を以て建てる碑小十三日と其の難

○九月二日赤良屋辰左衛門死 大葉藤の小うふりつるを良屋辰左衛門のこころ 以て源川黒江町小居一葉枝と号す

○十月大判出吹替元禄大判止志盟多又由吹替あり

○今年長葉の人志賀随氣 百七十 八才 小葉勅吉忠 二才 伊後市吉忠 百十 八才

石井勅吉忠 百一 沼田伴光 百一 水野法中 九十九 二才 葉田十吉忠 九十九 二才

中葉長葉系 九十 三才

同十一年 丙午

二月七日能人生玉葉風率 馬ノ葉子丹加葉押ト 去葉とち小葉氏

○二月廿日能人葉女率 六十二才利葉一と知渡とりの 吳葉と申念公事後北小葉氏

○二月廿九日儒師古犯點翁卒 自親居士と号し 市谷長谷寺小僧

○今年五穀豊饒あり ○圓向院少僧徒系形赤尾天照山大吉寺

朝日如来宗悋 ○五月浅草小揚こあげの理を講元皇人の老母不仕し 奇特の事ありて慶賞をのたまふ 崎人侍年山 紀伊守あり

○六月廿日能人の間治池率 六十二才号合款聖 浅草寺に在り小僧

○今年より十七年まで深川十万坪小治子清浅あり 之を元禄五年五月あり 同所にて清浅あり

○十一月十八日大道寺友山翁尚齒令 志賀隨翁も願六人の 翁令まゝ云姓名事詳

享保十二年 丁未 正月宣

二月朔日夜半時光村東より西へ花霞の如く鳴る

○本撰町采女ら来りて協和あり

○南田川本母寺梅若九七百年忌宗悋 二月十五日 寺に宗悋

○まき屋穂集後 知良村友山翁八十九才 編製年追加成る

○五月十二日能人の時百里率 号雷六十二才多因寺一川邊に在り小僧を 釋世の白 死て並てまゝ一死月を以てせり

比ををる不稿してまゝ書花里坊文山の書あり 詩人惟徳公百里の田あり忙威 ありて明をまひ一う宗曆七年七月六月あり及深く 因是寺に松濤波小僧あり

○六月下旬より本朝霜取寺非宮境内へ常陸守阿波大杉大御神

花梅ありてまゝ書花里坊文山の書あり 詩人惟徳公百里の田あり忙威 ありて明をまひ一う宗曆七年七月六月あり及深く 因是寺に松濤波小僧あり

花梅ありてまゝ書花里坊文山の書あり 詩人惟徳公百里の田あり忙威 ありて明をまひ一う宗曆七年七月六月あり及深く 因是寺に松濤波小僧あり

○釜原定林卒 月日 未詳 ○十一月七日新林本町白子屋店二并養子

又四郎妻のまゝ系三代忠八刑せしむる ひの母人の 初めあり

○十二月十日表二番町よりかき統町永因町鹿ヶ宮虎の山門又徳 町ありこ中橋上より表門其法をまゝて焼亡是より統町より通り 別地と成る ○十二月十日能人志邑陸風卒 百才 約止 大徳寺小僧也

享保十三年 戊申

正月五日清水如右奉

七十二方清水合符とて不詳其如右の橋由町小領一親弁をうりこ又ありくの細子をうりて橋の石を築き給ふありし中継後集りてりる然し不詳の字半は不詳三月廿九日終り

○同六日狩野如川周信奉 六十九方

○正月十六日夜光り物成小 ○正月十九日信備橋を修理定奉

六十三方又承に孫孫を承り ○日暮雲澤光と宝山作徳木の請弁を求て

三四長松とて并集ま 八重を定む井上通徳の序あり小多の 龍股後陰 星雲 希睦庵 後山夜麻 隅田秋月 利根遠航

暮花烟雨 神祠老松 雲のり又高取の 上三系のついでとてりる松を酒の橋とあり

○二月十六日橋成町とてり小川町一橋法門弁成ありとてり 於焼 ○二月廿七日家山家焼

○二月廿九日橋師板倉復軒奉 龍角谷法門とてり不詳其板倉 地丘の墓も同所あり

○番町廻町元山と水田町橋成町小川早渡河長服田町辺の於他 其菜草を止とてり ○七月二日連舟師里村仍氏奉 五十九方

○七月吉原仲の町小焼橋をかひ 前町中万字屋の名故とてりるもの 三回名ふりてりる中重をまつて仲の町儀や虎文揚を町松屋八重とてりる びるをまつむ始い切子とてりるありし小川破差と奇巧ありてりるみり ありしとてりることとてりる重とてりる

○八月廿日夜とてり九月二日二日如大風とてりてりてりてりてりてりてり 橋和泉橋新橋柳橋二日の夕方流成りてり朝とてり橋中程 二十六間切流とてり大橋橋の方中二男程切りてり代橋の普法の中 あり古橋橋流りてり谷津菜の内修きてり軒橋ありてり小石川 流成りてり小橋流りてり白山流りてり上方の白橋流りてり前渡法 門島平橋の二橋流損ふりてり新田家被り十一月あり

○十二月由桑久川堤廣うらぶ南極小石川小日向辺大木の所おきた
自中あつぬおむあり

○九月晦日偽作倭後好義齋率 名邦彦 泉岳寺小兼

○十月日田谷日宗小寺小鬼子母詐像を安直也 日法上人他源念 他人藤田兼房末

○江戸社社書記刊行 荒井嘉敷 編

享保十一年己酉 九月閏

○二月廿七日團学若跡於光海率 名良興祿宿内七十一才 青山玉窓寺小兼以

○二月十六日版田町坂上武家方よりあつ 金田系及 田安門弁於燒の

取法用地下減る ○五月交辻國の鄭大威といり著 廣南國の唐大衆 幸来り同月系於入大内(幸)廿月廿五日江戸長崎を往中此小あり一寛中

小覺るは骨分今も中社室家よりありこの時系所あり 龍御家の舟ありあり江戸世小兼次(幸)といり

巾の葉をうけしりのまじりて身をもむるもまじりて 烏丸 光葉に

この時中村三迫り編の巻の頁目録をうらむ頁珍記又編者不知家志たどりのまじりて 今やひく家志の語時(こ)つむり

○十一月廿二日書お後於保考率 号警彦後將 祿清助 甚務台徳雲寺小兼以

同十五年 庚戌

○正月江戸町火消に十七組を十組小定する 目下お奉の形あり纏の吹流 止てをまを付るこの時小組に十

七組あり後小本組を束て四十八組と成小帳止く返く 小纏を第の大纏小まとひともけ 祿清助より

○二月十八日原見十方庵の事自体終 九十方庵は行町 院光寺小兼以

○二月在醫室證廿五冊刊行

○二月春坂氷川湯神合井台(秘)を社法建立あり廿六日延云有

○三月因八幡宮破損より四月に春多七老子を信りて五月十五日より

日教五日の乃地内ふ於て勅化能具以 横倉を二つより一を採
一人分浪二つあり

○五月金丸銀札とん年の通り通用済免

○六月十六日辰野軒志賀随翁卒 百八十三才天徳寺
中野野原小葬

○八月廿九日大風由海川世三乃並吹浪も築地大ありあり

○十一月鷓鴣あひづりあひのあひ疾あひをあひ鼻あひとあひりあひとあひ急あひくあひあり

○冬より翌年暮るより麻疹流行 身うちく白牛
病をぬる

○是より見沼いぬま新田を築く 去る辰申年中迄不々見沼を新田不築は
以て田舎をう深友清といふ老を撰ふ
あつりしをを令せしう今年も又 命ありて是終末文字平流秀と撰ふはるのこり
あつりの切を立よりしは見沼の村川ふ船をせせんゆをせしう一か先一あひ高保十
良立併玉の二取の内ありて西の地をぬひはは神田川の辺あり郵地をぬひて見沼川運
漕に事お令せしきよりしは西をぬ新田と云はる子孫以化に年の傳ふた小山田
与清是なり

○正月八日狩野栄川古信卒 二十六才

享保十六年 辛亥

○正月十五日為中大風午下刻日自甚武家方より火火之辺のこり

○正月廿二日官儀安見映山卒 名久忠 極楽あり
麻布若狭と葬

○七月十二日案人野田群翁卒 名久忠 極楽あり
皆仁と葬

○八月十一日夜より十二日辰八時まで大風十七日夜并九月二日大

風為 ○九月十七日狩野永生の憲信卒 二十才

○十月十二日蓮上人四百九十年忌徳寺院法會あり

○十一月十二日耳落降せんりつ ○十二月十九日儒師右田希賢卒希賢八
二本板

義敬也
小葉也

享保十七年 壬子 五月望

正月十二日儒師右野極齋卒名義乃 稱野平
右野極齋也 小葉

○二月十二日兜室下青松寺より新橋を焼同日小石川白山
より火松平甲が彦部より

○二月増上寺まげん 柵門内子聖権現勅請

○二月廿八日浅茅平統与門前より火入浅茅下岩辺寺社所方
焼亡火燒也 火除のため 浅茅町 浅茅町 浅茅町 浅茅町
町庭を 百よき 浅茅町 浅茅町 浅茅町 浅茅町

○祇田原祇橋門再建立町より 祇田原の二つ一を見送り 合三町也
収む 祇田原町人より 寄附をりて 建立也

○浅草寺命院より上及新田医主の職其宗師冥徳

○岩船地蔵寺圓通より冥徳 ○天下肌腫疫癘行るききん えきまの

○六月十二日難屋松風卒八十六才 西暦教中
浅茅寺 小葉也 ○七月廿二日儒師平野

金華卒四十五才 称深草寺 約也 浅茅
蓮光寺 小葉也 浅茅寺 小葉也

○冬流鞠名人桑本光寿卒八十才 祇田原居せり 鞠の空との 水田味を丹練
より 近世の 妙豆ふりて 今も 光寿の 流方を知る

○昔々抄巻成形見入 乃法入 編写本あり 桑本
兼親の 以て 世上の 風俗を 述ぶる也

○江戸抄子初輯成七卷刊行兼親 山原の 編あり 後 継わたり たり 其男
恒吉 初冬 抄補正 再刻 今以て 世に 知らる

同十八年 癸丑

喜深草寺奥山小橋樹を栽 ○正月祭酒林信元日暮里説話巻
おぼへて十二景の詩あり十二景の 能波系 移父遠 浅茅川 夕照 権平村
田家 五子 深草 平塚 浅茅 慈光寺 秋内

浅茅夜鳥 建徳山 妙聖 浅茅川 浮帆
中里 魁彦 西系 浅茅

○七月廿八日世上一毒の降るこり小晴しく井戸蓋をさす

○八月十二日官儒室鳩巣生年七十八才通稱新脚後河志田安町他大塚藩持院東農家の後小葬儀

○九月十日能作桑忌貞休年六十五才寺所法若小葬儀

○十一月官医室月之英法若法の七室兵舞丹を弘む

○十二月奉新小法若疾速

○大坂若作把前探江戸へ下り是より義者更前の子孫瑞陽方小折るる把前掘り史書中其居所元と識る

享保廿年 乙卯 二月至

二月廿日浪種家若士二十二回忌浪種家の齋居石碑を建てる松久南條小左衛門撰あり

○二月十九日儒師山田麟源年名弘嗣孫大佐谷中南条小葬

○二月奉石町初人冬海を置る町医室永玄浩杉山養元契冬を制す同本中澤仙見人冬獨冬湯を弘む

○角敵たまかた人丸山授方馬長清中終○松板の名号回院中完儀

○同所奉下徳彰水時完儀○東廬山小右孫天宮建

○五月七日書家佐々木文山年七十七才階上寺中淨蓮院小葬儀

○五月晦日儒師齋見英修年七十六才新橋正源寺小葬

○七月二日黒雲天を覆ひ大風丸を吹く所々家屋を損む就巻ありとりの小秋深川八幡宮の境内小能作後室を後叙具神中

て神小奉り小祠を建る吉田家おけ緒あり一友とりの小後室修まるる小享保十八年四月廿二日之早雲寺宗祇法師墓の側小葬儀

○十月麻布寺焼亡○青木寅陽台守を蒙りて母葬儀を

裁○冥才忠也

○十二月廿二日細井廣澤卒

七十八才。カ村波致。子孫以門人平林。傳信友友之鳥。今葛原。冥思。恭之并親和。

倭益道之介。教多あり。男を九鼻知文といふ。

此年同記事

○同日之懼。宗判金毘羅指現社造營

或記留社。宗判古。よりり。い。時代再興ありてより。諸人も。

十坪。境内。并附あり。と云々。

○葛原。因。稻。新。社。平。井。聖。天。文。系。系。首。

○江。戸。中。凡。葺。清。免。あり。

○津。野。小。桃。樹。を。栽。り。め。り。○津。井。植。本。倉。坪。其。處。百。坪。の。楓。を。

○武。家。の。縁。上。平。享。保。の。以。り。始。り。と。津。田。同。名。を。よ。ん。え。

但。一。表。付。上。中。ハ。その。心。を。と。り。見。え。り。と。云。

○津。田。同。名。社。社。本。能。入。大。水。中。と。り。連。綿。と。り。○享。保。六。世。年。拜。

○倉。庫。折。焼。せ。り。と。り。あ。の。こ。と。終。り。

周小之中古を不厭甚と号し。一。つ。つ。を。を。一。つ。つ。は。風。遠。り。の。屋。根。に。本。柱。の。と。げ。雲。の。少。く。表。付。本。係。金。あり。を。中。小。人。形。系。花。木。の。あ。り。ひ。あり。是。を。か。小。係。て。か。一。つ。つ。を。費。や。し。を。金。を。二。十。に。五。五。を。限。り。と。り。今。の。か。一。つ。本。の。費。も。も。も。は。お。價。の。後。一。つ。圓。使。事。ある。を。り。つ。つ。一。つ。の。屋。産。の。外。小。も。附。多。と。号。し。新。の。福。り。お。せ。も。お。せ。一。つ。あり。屋。産。の。京。保。六。年。小。直。修。止。あり。て。は。後。の。か。老。り。を。か。以。室。唐。の。以。り。附。系。教。多。か。一。つ。費。事。お。お。り。て。踊。其。心。の。正。面。小。こ。一。つ。を。あ。つ。ひ。か。子。二。人。あ。つ。び。て。舞。を。う。け。咽。せ。り。一。つ。二。味。せ。ん。を。深。深。の。ち。り。めん。一。つ。の。後。の。敷。つ。け。り。る。を。舞。を。う。む。り。踊。子。ハ。を。あ。み。て。踊。る。節。を。教。の。後。日。を。後。の。内。あり。摺。証。の。日。を。後。の。上。の。方。一。つ。知。り。て。踊。り。男。子。咽。二。味。線。を。あ。り。あ。り。あ。り。扇。舞。子。とい。お。お。を。う。む。り。こ。ま。女。系。以。ま。て。の。風。信。あり。と。て。天。保。中。終。り。一。つ。を。教。打。板。田。を。五。府。の。を。り。あり。

○此。時。代。書。家。忌。林。竹。知。井。廣。澤。春。井。以。水。信。東。湖。佐。木。文。山。

○号。を。以。り。ま。り。り。○其。其。東。禪。寺。後。系。高。原。号。其。書。と。云。知。り。一。つ。宗。

○元。の。体。を。刻。意。一。待。他。小。妙。を。得。り。後。祖。誅。及。ひ。南。郭。小。學。ん。て。詩。

○風。を。愛。り。し。を。集。を。こ。に。渡。集。と。い。ふ。

○享。保。中。行。因。春。海。東。於。并。り。國。字。を。授。授。以。元。の。中。系。之。始。

○此。以。後。系。之。境。向。小。於。て。靈。金。とい。ふ。の。辻。終。義。小。然。云。を。受。く。

号以る所小臨溪を築葺す今加後新田と云ふあり又林田を築葺す
とり小の築きし臨溪を後年増築田とりし

○世初武相の界隈さか板小夜毎小鳴物の音あり笛鼓は人の声
もくもく老人の声一人あり近在江戸ともも彼小坊人あり一十
ろ不審しとて翌日喜ふあり止 大江戸具 秋子お

元文元年 丙辰 五月七日改元

正月仁風一覽上梓公布あり ○後忌令官板

○正月九日茶人行忌方内率 号可匡 三痛 如來寺小葺以

○系あふ粟生時光波寺張子清新圓向院より宗帳

○同真如堂を奉り湯し又社地より宗帳 ○五月より字令銀通利六月

引習始り 文令銀 たりし ○六月廿日園林行率 初編と号し書を記し 後年丁字安古寺葺以

○七月下旬より東の方小赤地早あり 赤地時 以あり

○八月品川 あき大就寺小具道子の等南浦補陀山徳海寺立石

親世若像を写して碑を立す 素人赤伯喬寫し 加後氏造立

○八月晦日古等より仲率 八十一才等中 隠にちま葺以

○十月小梅村より少幾を濟さ存し 背文小の字あり今幸 猿に少し濟法あり

○十二月江戸大雷 合運 小お ○十二月西く大煩ひ多く死に

○武蔵野地々考梓行 鶴毛川上麦村百姓 田原源太郎義章也 一丁の日記梓行 叔法編 編

同二年 丁巳 十一月圓

二月十六日より淺草寺親世若宗帳

○三月廿九日同日勅す新長谷寺時の禪僧表撞初めあり

○四月廿五日益時外山の辺より滝をくくる協りより不徳田町をりて

養子人亦不損也 ○五月二日下谷八軒町より矢火由徳士町を
上野廣小池池の端東敷山慈眼堂より坂本合符其の端まで
焼了 ○七月十九日書家池永道雲卒 久英具家刻を長くは
後系其子小葉也

○八月川口菅光より先小池魚小淵りりりり再建の奉加
をよりむ男女老稚日毎小募縁の界をうりひ証をなりり市井
を群行りり施財を募る九月小淵りり信止せりり其意生れり
奉加の事を撰むるの文あり則生れり文集小載りり

○飛鳥少ノ桜樹を栽りりりり同所一牌立の風脚文を撰む 今橋と
伝蔵

○飛戸又深川小奈木川より清後あり小奈木川より清りり雨のりり
表の端或ハ背面小川の字あり

○十月十日夜五時星月を貫く 東より月中小
入り南方小あり

○十月七日世上一同小煙のりり吹かりり火事の如し此節暖氣 ぐんき

○十一月十日水府侯儒宗安横渡泊卒 号老身居五十五
号り舞水生れの川へ

○薩摩芋此ころより追く弘まる宝鷹小淵りり上総下総生れ ゆりりあきり飛り

二月朔日夜五時以光物飛り

○二月廿九日儒宗版岡東溪卒 名隆具 隆基
卒後子小葉以

○四月廿七日書家岡秀竹卒 林竹の男名義等稱持卒
後系其子小葉以

○五月賀屋名居居建 後系其子小葉以

○五月十日儒所徳力恭軒卒 号有隣日暮里 南泉寺小葬 ○冥东凶化

○七月廿七日能人源川湖十卒 六十余才一号光胤 山台宗林寺小葬

○洞房河室梓行 后司務 冥化

元文四年 己未

今年冷泉为久々中向の折筋花鳥山の梅を斫り以て

折枝の多き者因を以てあすう山花のところが甚も知る者

○牛津茶王子権現冥化 ○回向院少く二月至奉旨冥化

○本所押上少く後縁を講又平社新因少く講縁あり

○二月十日神田郡中少く火柳多き焼亡

○十月廿日在り少く後筋河原瑞瑞を信する ○本穀拂底少付

下遊の出拂米あり ○十月廿三日儒所室切初卒 名六漢 大塚内蔵富小葬

○十二月晦日日暮里甚福少く自陸落生致さず葬式乃

真如をさす一踊り相ひく耳目を驚せり同日中才少く終り

一や貝入たり墳墓も同少くあり 自陸落生通称山崎三郎在り少く

の犯事あり此後氣随少く才官を拜一た少く好く能居をさく

同 丑 年 庚申 七月至

回向院少く佐州若光寺如来冥化

○伴勢少府の阿弥院江戸少く冥化 ○二月十六日南郭の二男

愿卿・彦彦少置りて卒 十七才称松三郎といふ東海寺中少林院葬也 幼少り非童の父あり其力を集り浄信集云

○七月朔日書家藤原東海卒 久能章根者 若性寺小葬

○能人清少朝波卒 二十六才淡路 林念寺小葬 ○九月一日若後筋元祖宮古路

若後塚死 ○人少く少業を更へて少く其少く一室七月

信々 ○十月廿六日東湖御所寂

小石川二百枚意照院小
葬を能く出の安元あり

此年間記事

小金井村

多摩郡

小和次吉野常州梅川の梅の苗を栽活

始寛永
のむ

植させあひ一両あり一が安元の
ほまても於植められしり

○武蔵志料云終る森八幡之境北井

ある所の鳥名の麻布雜之町の先古川と云ふ所近年在て齋を

号し今もその名を齋るといふ元々の所鳥名の葛原已ら名を世小

知せんといふ名を於の森小枝めと名と改あり書家の屋

名を好む加ありといふ

平林懐信

信林
庄丑吉

父と鎌倉清左衛門といふ室町の懐信清左衛門

書を能く是れ大福帳の上書して賣事首ありといふは清左衛門を

とてめとけりは清左衛門高家大方彼ら上書を求て懐信ら

細井廣海門下入能書の安元あり

○この冬之際換板を有る市松形といふ舟と舞妓は若佐村市松

好むといふ事なり ○舞子の花めいさうとありあり

寛保元年 辛酉 二月二日臨元

正月廿四日書家と海友を交政辰年

七十一才号友赤
車坂大寺小葬也

○二月九日後長氏十二代赤家年

五十に才

○二月廿七日吉原仲の町へ梅

を栽す

此後寛永三年の頃より
裁て年例といふあり

○七月十七日佛師依後周郭年

本堂再建
せし如向之

○七月廿四日新井宜彌年

白ふ
男

○十二月廿五日捨像流劍術祖

○この冬大寺の年

約込言林の墓あり葬世の骨彫付てあり
葬佛ありてまりて何うせんあふなりとも後身の小まき

同二年 壬戌

軍帳初後より年才天軍帳 ○同日より王子権現同徳新軍帳

○同日より日暮軍陣先より人丸形新軍帳

○同日より六町延絶不義軍帳 以基井子午
三年辰戌表

○己月六日医師屋月百里率 号雷山又号唐七十九才清道其松院下
華以和舟を結せ一人之因形百里二人

あり一人ハ能師言百里
雷事と異は混生へくく ○閏己月朔日より湯湯社内より大坂天より

聖徳太子軍帳 ○同日より市谷八幡より野州東より莊山医王

七兵衛師如來軍帳 ○同日より池の好吉より比叡山坂本軍帳

七祖師軍帳 ○六月二日尾形乾山率 八十二才号深省祿三所法橋
光琳の兄之号とせり此の陶器小

名ありあるとせり
坂本若菜と小華と ○己月朔日比叡山宿を信 實深元年の辰の
比叡山八友町あり
櫻田田の武士と頼家其死せりありとより比叡山町中へあるを止めひけしはたを初六
十帖ある神田よりあるを上と一子孫田下若竹町若所ありを下と比叡山の如和泉町
を上と一八友町を中と一を藤原系に改め太田中比叡山町ありあるは比叡山の宿
細か賀美とあり一は比叡二年より 藤原系其宿の比叡中にある上の比叡山の子びく比二人

つまらるる令堅固を
おとらりたること云く ○七月朔日より廣道流防時流防時新軍帳

○同日より阪田町世羅徳新軍帳

○同日より市谷八幡より一才風車より日輪院不勅新軍帳

○十一月上旬より夜く孫丹馬の方不現 稲馬
とらり

此年間記事

船形宗通は戸不世六人あり駈したるありて常徳といふ
人の攝りて千の秋より小郷書あり今所宗通と号は若狭百人
ありやちうへうは比叡道の表よりおぼ盛ありり知り

○宮子の地井山 まねて 推しありけり一葉屋女不ふあり

武江年表卷之四 畢 编者 齋藤市左衛門幸成

武江年表後編

從延享元甲子年
至嘉永元戊申年

四冊出來

嘉永二年己酉十月刻

大坂心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

江戸日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

發行書林

同 淺草茅町二丁目

須原屋伊八

發行

京都三條通井屋町

出雲寺文次郎

大坂心齋橋筋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋筋安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同 日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 横山町三丁目

和泉屋金右衛門

同 本石町十軒店

英屋大助

同 神田旅籠町二丁目

紙屋徳八

同 大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛

同 日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

同 日本橋通四丁目

須原屋佐助

同 神田通新石町

須原屋源助

同 淺草茅町二丁目

須原屋伊八

書林

